オーディオ実験室収載

ターンテーブルアキュライザーの導入(5)
－TohrensTD124 への適用(2)－

１．始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1 が発売されたとの情報を入手し、前報(1)の計画に従って評価をしていきます。今回も、TohrensTD124 に使用してみます。

２．ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

ThorenTD124 再生の現状は下記のとおりです。

アナログプレイヤーの比較試聴(18)

TD124→ZANDEN Model120(アンバランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは SPU Synergy、アームは RMG212 、フォノステージは ZENDEN Model120 のアンバランスフォノ入力段です。

さらにターンテーブルシートは LINN LP-12 付属のフェルト製のものを、スタビライザーは foQ 製のものにフェルトを貼ったものを、インシュレーターは自作品を使用しています。

このスタビライザーを外して TACU-1 に交換します。

音源は聴きなれた下記を使用します。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929

J.S.Bach　Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン　三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）

ゲザ・アンダ（ピアノ）

LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）

リヒヤルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel AA-9117・C

ヘンデル　メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

３．ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

上記はいずれも大編成の曲の解像度と楽器の質感の再生を要求されるもので、Bach の Sonatas & Partitas と選帝侯のソナタは TELDEC 逆相、第 4 時定数 High で、ワルキューレは DECCA、逆相、第 4 時定数 High で、メサイアは EMI、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。
これらの再生上のポイントは、前報(3)で述べたとおりです。
Bach の Sonatas & Partitas では、上記スタビライザーの状態でも、艶のある音色で豊かな響きが聴けますが、TACU-1 を適用しますと、よりディテールの再現が向上し、艶が一層増してボウイングの様子が分かりやすくなります。
選帝侯のソナタでは、上記スタビライザーの状態でも、アンダのつやつやのある力強い打鍵が聴けますが、TACU-1 を適用しますと、そういった表情はそのままに、音の芯がしっかりして、より演奏のフレージングが分かりやすくなります。
ワルキューレでは、上記スタビライザーの状態でも、ソプラノやメゾソプラノは朗々と歌い、オーケストラも迫力がありますが、TACU-1 を適用しますと、歌手達の情熱的な歌唱が伝わってきますし、オーケストラもディテールの再現が向上し、ショルティのワーグナーにかける意気込みが伝わってくるようです。
メサイアでは、上記スタビライザーの状態でも、ソプラノやバスの声の質感も十分で、合唱とオーケストラの分離も十分ですが、TACU-1 を適用しますと、オーケストラの楽器の質感の向上によりソプラノやバスのソロのオーケストラとの協調が分かりやすくなり、合唱の各パートの分離がよくなることから、各パートの受け渡しが分かりやすくまります。
ThorensTD124 は、1950 年代後半の設計のベルトアイドラー式のプレイヤーであり、ジャンク品同然のものをリストアしたものなので、TACU-1 がどのような効果を発揮するか興味がありましたが、このような古いメカのプレイヤーでも効果が現れることが分りました。

４．まとめ

ThorensTD124 のような旧式のシステムにおいてそれぞれ再生上固有の魅力のあるアナログ盤においてその魅力を倍増させる TACU-1 の効果を認めました。

以上